2017年12月14日 第3号

全労連青年部ニュース
YOUTH TOPIC
つながる・たたかう・支えあう青年部を

ホームページhttp://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/ ブログhttp://blogs.yahoo.co.jp/zenrourenpower

日本平和大会in岩国

10月28日29日の両日、山口県防府市・岩国市で「なくそう！日米軍事同盟・米軍基地2017年日本平和大会 in 岩国」（主催＝同実行委員会）が開催されました。全労連青年部は10月28日に開催した青年集会「ピースシャウト2017in山口」、29日の分科会入門編　岩国基地って何やっているんですか？　～根っこの安保条約から考える～」の企画・運営に関わりました。

ピースシャウト2017in山口

青年集会「ピースシャウト2017in山口」では、はじめに、参加者全員で「ピースクイズ」に挑戦。岩国基地の実態や日米安保条約によって基地が置かれていることを学びました。

その後の運動交流では、山口青年実行委員会が平和大会に向けて9月に山口、岩国両市で実施したシールアンケートの結果を報告。「基地の存在が当たり前で、基地がない町のイメージが持ちづらいのかもしれない」、「基地が身近にあっても、実態はほとんど知られていない。考えるきっかけをつくりたい」と話しました。他に山口（高教組）、沖縄（民医連）、大阪（平和委員会）、広島（原水協）、愛知（平和委員会）の青年が登壇し、平和についての思いや活動について語りました。

フィナーレでは、岡山で共謀罪法に反対してデモを行ってきた青年グループ「モモケン」、戦争法に反対してきた広島の青年、翌日のデモのコーラーをする山口の青年が登壇。「戦争法はいけんじゃろ」、「ぶち好きじゃけえ、憲法9条」、「基地はいらない」など、音楽に乗せて声を響かせました。

閉会あいさつは山口県教組の青年が行いました。初任地だった岩国の小学校で感じた複雑な心境を語り、「教員として何ができるか、岩国を離れてからも考えている。子どもたちに自分の意見を持ち、自分の言葉で語る経験をさせてあげたい。そこから日本の将来を変えていけるんじゃないか」と語りました。

参加者からは「クイズで基地について楽しく学べた」「同世代の活動が知れてよかった」と感想が寄せられました。

入門編　岩国基地って何やっているんですか？～根っこの安保条約から考える～

初参加者向けの分科会「入門編　岩国基地って何やっているんですか？　～根っこの安保条約から考える～」では、冒頭、山口青年実行委員会の青年が、9月に県内で行った基地についてのシールアンケートの結果を報告。

その後、安保破棄中央実行委員会常任幹事の小泉親司さんが講演。基地の説明では、日本の主権が及ばず「民有地も“基地”になることがある」と指摘。さらに、「日本は世界有数の“基地国家”」であり、米海兵隊岩国基地では空母艦載機移転などの大増強が進められ、米軍関係者は1万人超になること、米軍機が約130機常駐する東アジア最大の基地となること、「この1年で、国内のあらゆる主要基地が大増強された。それらは岩国での異常な基地強化とも一体のもの」と解説しました。その他、岩国基地が核戦争の最前線基地に位置づけられてきたことなどを解説しました。

講演の後、参加者は少人数のグループに分かれて、疑問や感想を出し合い、「戦争がなぜ起きるのか」、「自分の住んでいるところで何ができるか」など多くの質問が出されました。

最後に小泉さんは、「米軍基地によって日本の主権が侵されている。この先も基地を残していいのか問う必要がある。基地の実態を一つひとつ運動で国民に告発し、“基地国家”をただしていくことが求められる」「来年、沖縄では名護市長選挙、県知事選挙などの大事な選挙がある。基地のない日本をつくるために力を合わせよう」と訴えました。

【全労連女性部ニュース NO.855 より抜粋】

男女ともに仕事も生活も大切にしながら働き続けるために 公的保育拡充と育児休業改正を求める厚労省要請

全労連女性部は青年部とともに 11 月 8 日の中央行動で、公的保育の拡充と育児休業改正を求める厚生労働省要請をおこないました。全印総連や国公労連、医労連のほか、東京、京都、長野からも参加し、現場の実態を訴えました。要請の冒頭、長尾ゆり女性部長が要請趣旨を述べました。

「10 月 1 日から改正育児介護休業法が施行され、現在、男性の育休取得推進などの課題で、厚生労働省内の研究会で議論されているが、育児介護休業法の更なる改正が求められている。少子化が大きな課題としてある中で、男女ともに仕事も生活も両立させていく条件改善のために労働組合としても奮闘したい。結婚できる、子どもを産める、子どもを育てられる労働条件、賃金の改善が求められている。また、仕事も生活も大切にしながらやっていける労働時間でなければならない。教育費、社会保障の充実があってこそ少子化が解消する方向が見えてくるのではないか」としたうえで要請項目の説明をしました。

青年部発言抜粋

全労連　五十嵐さん）子どもができたとき、二人だけでは育てられないと条件を整えた。職場から遠い実家に戻り、保育所に入れた。この条件の一つでもかけたら働き続けるのは難しかったと思う。

医労連　保科さん）２月に子どもが生まれ、保活中だ。４月でなければ入れないので生後３ヶ月から入れたという話しも聞く。保育園を選べるような状況になく、入れるところに入れるしかない。自分は１ヶ月育休を取ってとても良かったが、会社によっては｢あなたが育休を取って会社に何のメリットがあるの｣といわれた人もいる。啓発を進め、男性の育休取得を進めてほしい。

看護師はぎりぎりの人数でやっているので一人かけると、仕事が回らない。子どもと過ごす時間を犠牲にせざる終えない状況だ。看護師の増員を進めてほしい。

長野　八重田さん）３歳と５歳の子どもがいる。生まれ月によっては１年間の育休を取りたいと思っても途中で切り上げて４月から保育所に入れる人は多い。私も上の子はそうだった。

保育士はいつも保育所にいる。お盆休みもなく、お盆は有給を使って休んでいる。男性の保育士が増えてきたが、結婚して生活ができないとやめてしまった。それでも子どもが好きで戻ってきたが生活が苦しい。みんなが楽しく暮らせる社会にしてほしい。保育士の犠牲の上に自分の生活が成り立っているのはイヤだ。

自分自身は９時～５時の仕事だが、起きている時間のうち子どもに会っているのは４、５時間。朝２時間、５時までの仕事でも家に帰るのは７時。「残業なし」の法律にしてほしい。育児休業期間中の社会保険料免除はとても助かっている。育児休業期間の基本は１年というが、所得保障を拡充してほしい。１人目の子育ては苦しくて、２人目はもっと苦しくて、３人目はとても考えられない。時間も余裕もお金もない。産むことすらできない世の中を何とかしてほしい。